平成２８年度協働事業提案募集採択事業の概要　No. １

１　**事業名**　　：「地域で、チームで、長い目で」学童保育を核に、発達障害があっても自分らしく暮らせる備中地域づくり事業

２　**実施団体名**：岡山県学童保育連絡協議会

３　**協働担当課**：健康福祉部福祉振興課障害福祉・保護班

４　**事業概要**

学童保育（以下、「児童クラブ」という。）では多数の発達障害児を受け入れているが、専門家の支援や他機関との連携が少ないまま、各児童クラブの指導員が試行錯誤で奮闘しているという現状がある。このため、発達障害があっても安心して暮らせる地域づくりを目的として、乳幼児から青年期を通した長い目で、地域の関係機関のつながりを作れるよう、発達障害児を保育する学童保育を「作業療法士」が支援するモデル事業を行うとともに、児童クラブ、保育所、教育機関、就労支援事業所や企業等の関係機関に呼びかけてシンポジウムを実施し、雑誌への掲載、冊子の作成、ＳＮＳを用いた情報発信により、啓発を行う。

（１）フューチャーセッション（参加型意識共有スタートイベント）の開催

これまで、全く接点のなかった児童クラブ関係者と作業療法士の双方に本事業の実施を周知し、「連携することの有効性」を意識化し、今後の具体的な取組案を作成する。

（２）作業療法士による指導員の指導

保育現場での発達障害児に対する支援方法を学ぶことを狙いに、倉敷市内を中心に選定した作業療法士１５人が児童クラブへ継続的に訪問して、対象児や保育を観察後に指導員と意見交換することにより、支援技術の向上を図る。

あわせて、児童クラブに対して観察や意見交換の報告書を送ることで、児童クラブ内での情報共有を行う。

また、指導員が作業療法的な視点を理解するため、児童クラブの指導員を対象に、作業療法士を講師とする発達障害児支援講座を実施する。

（３）シンポジウムの開催

長い目で発達障害の子どもの支援を行うことを狙いに、学童保育関係者、保護者、企業関係者、専門家、市民を対象にシンポジウムを実施する。

５　事業の流れ等

（１）フューチャーセッションの開催

・期　日　平成２８年６月５日（日）

・場　所　玉島市民交流センター

・講　師　就実大学経営学部 教授 林俊克

・内　容　「誰もが過ごしやすい地域」をテーマに、学童保育関係者、作業療法士、市民等がファシリテーターのもと、自由に発想を広げながら、学童保育と作業療法士が連携することで、発達障害児も過ごしやすい学童保育を目指すという共通目標を確認した。

・参加者数　６２名

（２）作業療法士による指導員の指導

ア　訪問指導（コンサル）

① 倉敷市二福のびのびクラブ

・内　容　同一作業療法士が２カ月毎に訪問して、継続した指導を行った。

・期　日　７月、９月、１１月、２月

② その他のクラブ

・内　容　半日に２クラブを５人の作業療法士チームが訪問して観察した後、指導員とのミーティングを行い、後日、作業療法士チームが訪問した児童クラブへ観察結果やアドバイスをまとめた報告書を送付した。

・実施回数　７月２クラブ（倉敷）、８月４クラブ（倉敷）、１２月１クラブ（倉敷）、１月４クラブ（倉敷２、高梁１、総社１）

イ　発達障害児支援講座

①第１回

・期　日　平成２８年９月２０日（火）

・場　所　総社市保健センター

・講　師　首都大学東京大学院人間健康科学研究科 教授 小林隆司

・テーマ　作業療法士の仕事全般、２０１５年「ニーズ調査」報告

・参加者数　９１名

②第２回

・期　日　平成２８年１０月６日（木）

・場　所　総社市保健センター

・講　師　川崎リハビリテーション学院作業療法学科 副学科長 森川芳彦

・テーマ　感覚統合理論の視点から見た子どもの理解と対応

・参加者数　８１名

③第３回

・期　日　平成２８年９月２０日（火）

・場　所　総社市保健センター

・講　師　倉敷成人病センター　河本聡志　氏

・テーマ　子どもたちの生活環境を理解する。

＊子どもたち個々の特性を知る（発達障害児・定型発達児）

＊子どもたちが行っている活動の特性を知る。

＊目標設定をし、子ども達へのアプローチを学ぶ。

・参加者数　１１５名

（３）シンポジウムの開催

・期　日　平成２８年１２月１８日（日）

・場　所　浅口市中央公民館

・講　師　青山商事株式会社井原商品センター 副センター長 細川孝志

〇パネリスト

企業担当者：細川孝志　氏（青山商事株式会社）

作業療法士：河本聡志　氏（（一財）倉敷成人病センター）

保護者：杉岡裕佳　氏（倉敷市障害児学級親の会）

就労支援コンサルタント：宇野京子　氏（ハートスイッチ）

学童保育指導員：籠田桂子　氏（ながおキッＺ）

〇コーディネーター：小林隆司　氏（首都大学東京）

・内　容　「未来に向けて、学童保育の現場で意識しておきたいスキル」と題した企業の障害者雇用の取組の報告を聞き、ひとりの子どもの成長に応じた見通しを知り、保護者や学童保育指導員、企業、作業療法士等のそれぞれの立場から発達障害児の就労を見通した支援を考えた。

・参加者数　約２００名

６　成果・効果

（１）　地域でのつながりが作れたこと（地域で）

① フューチャーセッションにより、学童保育を中心に「作業療法士が発達障害児の支援のプロ」であることを知ってもらい、作業療法士に学童保育について理解してもらうことができた。

② 作業療法士という専門家との連携をきっかけに、学校、保護者等との新しい連携が始まった。

③ 実際に関わりのあった保護者はもちろんのこと、ＳＮＳを通じて、発達障

害児の保護者や祖父母等から、この取組への多くの期待が寄せられた。

④ これまで、全くかかわりのなかった岡山県作業療法士会と当団体が本事業を通じて、つながることができた。約１，１００人の作業療法士会員のうち、発達障害領域は約３０人しかいない中、２０人を超える作業療法士の事業への参加があった。

⑤ この取組を第２３回岡山県保健福祉学会で報告し、障害児支援の関係機関や行政関係者に、発達障害児の増加、学童保育関係者の奮闘と、発達領域の作業療法士のスキルについて知ってもらうことができた。

⑥ 保育園や学校とのさらに強いつながり作りの一歩を踏み出した。

（２）　学童保育での発達障害児支援スキルが向上したこと（チームで）

① 作業療法士という専門職が入ることで、これまで、指導員が経験的に蓄積してきた発達障害児の対応を言語化することができた。

② 「具体的な動きや行動に着目する」という作業療法士の手法により、指導員チームでの共通理解ができた。目標も立てやすく、指導員のキャリアの差があっても、チームで取り組みやすく指導員のチーム力が上がった。

③ 指導員個人もチームも自信がつき、学校教員や保護者との新しい連携も始まり、多職種による子ども支援の可能性が見えた。

④ 特に、２か月に１度の継続訪問を行った二福のびのびクラブでは継続した取組となり、定期的に子どもの様子や支援の成果の確認と修正ができ、指導員チーム力として子どもへの対応もスムーズになった。

（３）「就労を見通す」という長い視点が持てたこと（長い目で）

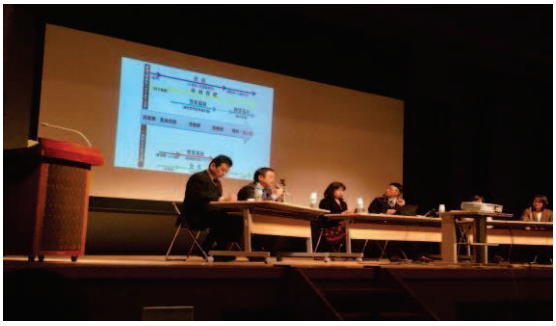
「就労を考えるシンポジウム」を企画することで、初めて、学童保育の関係者として、企業関係者、就労支援コーディネーターに出会え、保護者の不安や悩みを聞くことができた。

７　今後の課題等

今後、「作業療法士による学童保育へのコンサル」を継続するためには、財政面の確立や制度化が必要である。そのためには、継続した良質の実践と数字的な効果を提示することが必要である。

また、学童保育へのコンサルを継続するためには、発達領域の作業療法士の絶対数が少ないことから、関係団体と協力しながら、並行して発達領域の作業療法士を育成することが急務である。

８　実施状況

フューチャーセッション （学童保育と作業療法士の初の出会い）	作業療法士による指導員の指導 （子どもたちの様子を観察）
作業療法士による指導員の指導 （観察後の熱心なミーティング）	作業療法士による指導員向け講座 （総社市内）
	
就労を考えるシンポジウム （浅口市内）	啓発 （子育て雑誌やＳＮＳで情報発信）

©岡山県「ももっち・うらっち」

平成２８年度協働事業提案募集採択事業の概要　No. ２

１　**事業名**　　：備中志塾～備中の伝統文化の継承と発展～

２　**実施団体名**：一般社団法人高梁川流域学校

３　**協働担当課**：地域政策部地域づくり推進課市町村連携班

４　**事業概要**

備中人としての教養を身につけ「２１世紀の備中人」として地域に資する人材を育成することを目的に、民俗学者の神崎宜武氏を講師に迎え、備中の歴史・地理・芸能・旅・食に係る全６回の対面講義を国指定重要文化財である大橋家住宅（倉敷市）で、定員２５名の入塾制度を採り入れて実施した。

また、塾生以外からも広く参加者を募っての公開講座を頼久寺（高梁市）や総社宮（総社市）で実施したほか、高梁川流域のケーブルテレビやYouTubeでの配信を通じて講座の認知度を高め、幅広い世代に歴史的文化を継承する必要性を発信した。

５　**事業の流れ等**

（１）対面講義

①開催日及び講義内容　　※（　　）は受講者数

８月３０日(火) 古代吉備の風景－遺跡・神話・文化地理（３８名）
９月２８日(水) 中世の村落と三斎市－吉備高原の道をたどって(３５名)
１０月２５日(火) 備中神楽「吉備津」－実演を通して能とも比較(３７名)
１１月２９日(火) 近世の街道往来－参勤交代・伊勢神宮・芝居興行(３５名)
１２月２０日(火) 年中行事と飲食－備中のまつりと節供を中心に(３４名)
１月２０日(金) 廿日正月の祝い膳（３２名）

②開催時間

18：30～20：15（第６回のみ 18:30～23：00）

③会場

国指定重要文化財 大橋家住宅(倉敷市)

④費用

全６回講座9,000円（テキスト代・茶代込）

※学生5,000円。第６回は、料理代金5,000円が別途必要。

※全６回の受講で修了証と高梁川流域学校パスポートが授与され、備中志塾及び高梁川流域学校が主催する講座やプログラム等に優先的に参加できるほか、企画運営に参加することができる。

※単独参加は1,500円／１回

（２）備中学のすすめ「備中人としての教養とは」　※（　　）は受講者数

９月２７日(火) 18：30～20：15　頼久寺・高梁市（２９名）

１０月２４日(月) 18：30～20：15　総社宮・総社市（４４名）

６　成果・効果

・ケーブルテレビを通じて講義を配信することにより、伝統文化の成り立ちやその価値についての知識が共有され、地域コミュニティの再構築や地域愛の醸成が図られた。

・入塾制度を採り入れることによって、地域に必要とされる志を持った人材を育成することができた。

・ＳＮＳ等を使った世界に向けての発信が可能となり、国際的な関心を集めて地域へのインバウンド観光客を呼び込むことで地域経済への貢献も実現できる。

７　今後の課題等

・参加者が単に講座へ参加して知識を身につけるにとどまらず、更に伝統文化の継承を促すため、卒塾生のネットワーク構築や新たなアクションへ繋がる仕掛けが必要とされる。

・事業の広がりに合わせて増大する事務作業に対応できるスタッフが必要となることから、例えば大学との連携や卒塾生が運営面に携わるなど、人員確保に向けた検討が必要である。

８　実施状況

対面講義（大橋家住宅）	対面講義（大橋家住宅）
備中学のすすめ	備中学のすすめ

平成２８年度協働事業提案募集採択事業の概要　No. ３

１　**事業名**　　：備中・矢掛まるごと博物館

２　**実施団体名**：ＮＰＯ法人　備中矢掛宿の街並みをよくする会

３　**協働担当課**：地域政策部地域づくり推進課市町村連携班

４　**事業概要**

備中矢掛地域には先人から受け継いだ豊富な歴史遺産や文化遺産があり、これらを現代の視点から新たに見直し、地域全体を「まるごと博物館」としてとらえ、この地域を理解し、この遺産を後世へと引き継いでいくため、地域遺産を巡るツアー、伝統芸能（備中神楽）上演、シンポジウム（戦国時代の山城がテーマ）の開催等、各種事業を実施する。

５　**事業の流れ等**

（１）備中矢掛まるごとツアー

地域遺産である神社仏閣等（大通寺、吉備真備公園）を巡る

①桃太郎伝説をディープに巡るツアー　平成28年10月２日（中止）

②矢掛・猿掛城歴史散歩　平成29年１月28日（約120名参加）

③神社仏閣ツアー　御敵退散　平成29年２月５日（13名参加）

（２）備中神楽堪能会

①開催日　平成28年12月11日（延べ約250名参加）

②場所　矢掛町農村環境改善センター

③概要　伝統芸能である備中神楽を８時間にわたり上演

（３）備中戦国・山城シンポジウム

①開催日　平成29年１月29日（約170名参加）

②場所　矢掛町農村環境改善センター

③概要　歴史研究家や県文化財センター職員等による基調講演及びパネルディスカッション

（４）備中お菓子の大博覧会

①開催日　平成29年３月５日（延べ約200名参加）

②場所　やかげまちかどギャラリー、地域の各店舗

③概要　矢掛内の９つの菓子店舗を巡るスタンプラリー

６　成果・効果

・開催行事が複数回新聞等に取り上げられるなど、地域住民にとって普段気付かない地元の歴史的遺産の認知度向上、地域の伝統文化の発信につながった。

・参加者数は行事によってばらつきがあるが、近隣地域から人が集まることにより地域活性化や観光振興が図られた。

・２カ年にわたる実施の結果、一部の事業については、今後も継続的に実施できる見通しが立った。

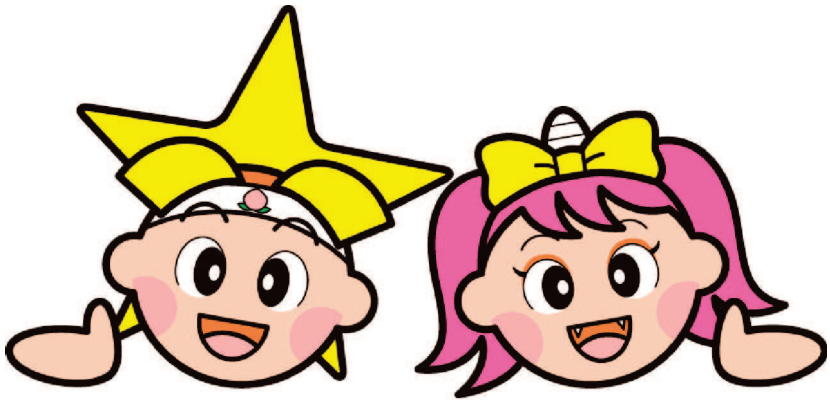
７　今後の課題等

・継続可能とされた事業の収支均衡に向けた財源確保の取組。

・団体としても人手が十分でなく、より円滑に事業を実施するため、事業運営に見合った組織体制の充実が必要。

8　実施状況

<table>
<tr><td> </td><td> </td></tr>
<tr><td>猿掛城・歴史散歩</td><td>神社仏閣ツアー　御敵退散</td></tr>
<tr><td> </td><td> </td></tr>
<tr><td>備中神楽堪能会</td><td>備中神楽堪能会</td></tr>
<tr><td> </td><td> </td></tr>
<tr><td>備中戦国山城シンポジウム</td><td>備中お菓子の大博覧会</td></tr>
</table>



©岡山県「ももっち・うらっち」

平成２８年度協働事業提案募集採択事業の概要　No. ４

１　**事業名**　　：高梁川トレイルによる風土ツーリズム開発

２　**実施団体名**：一般社団法人水辺のユニオン

３　**協働担当課**：地域政策部地域づくり推進課振興班

４　**事業概要**

高梁川トレイルが風土ツーリズムとして完成するよう、ルートの開発・磨き上げ・マーケティング、オープンデータマップ制作、推進体制整備等を行う。

５　**事業の流れ等**

（１）高梁川トレイル実施プログラムの磨き上げ

平成２７年度に開発した３コースについて、子どもからシニア層まで幅広い世代が参加できるようプログラムを磨き上げ、モニターツアー８回（うち親子トレイル３回、キッズキャンプ１回）を実施し、７５名の参加があった。

参加者アンケートによりマーケティング分析を行い、高梁川流域の着地型観光ルートとして商品化の可能性を探った。

①　備中松山城と臥牛山コース（約 14km）

実施日：9 月 24～25 日、10 月 16 日、11 月 13 日（計 3 回、26 人）

② 吹屋往来（成羽～吹屋）＆とと道コース（約 15km）

実施日：10 月 8 日、10 月 23 日、11 月 12 日（計 3 回、33 人）

③ 倉敷川とともに歴史文化を辿るコース（約 15km）

実施日：10 月 30 日、12 月 4 日　（計 2 回、16 人）

※①と③のコースで親子トレイルを設定して実施。

（２）トレイルルートの環境整備

各トレイルルートの下見調査で危険箇所等を確認し、案内板の設置や倒木の除去など、地元組織等と連携してルートの環境整備を行った。

（３）新規トレイルルート調査

地元知見者等の情報を収集し、新たに３ルートについてトレイルプログラムとしての可能性を検討した。

①　笠岡金浦～矢掛町～美星町三山

②　岡山県立大学～砂防公園～鬼ノ山～血吸川～足守

③　吹屋～坂本～花木～鯉が窪湿原～新見哲西

（４）高梁川トレイルの情報発信

リーフレットやホームページのトレイルマップを充実させ、汎用性があり、継続的に利用できる広報媒体として制作した。

（５）ワークショップの開催

① 第１回高梁川トレイル推進協議会（仮称）設立準備会

日時：平成 28 年 7 月 3 日（日）10:00～12:00

場所：成羽文化センター

② シンポジウム「歩くことではじめてわかること」

日時：平成 28 年 10 月 29 日（土）13:00～16:00

場所：吉備国際大学 国際交流会館

参加者：20 名

③ 熊野神社（福岡神社）～JR 木見駅ルートのワークショップ

日時：平成 28 年 12 月 21 日（水）

場所：熊野神社

（６）プロダクト制作

バンダナとバッジ等をプロモーション資材として制作し、トレイル参加者やイベントで配布した。

６　成果・効果

・モニターツアーでは、参加者が長時間一緒に歩き、協力して目標を達成することにより連帯感ができ、満足度も非常に高くなることがわかった。

・トレイルに関わる各団体が協力してルートをつなぐ合意が得られた。また、協議会組織設立の必要性が検討できた。

７　今後の課題等

・トレイル実施のためのルート整備に労力と時間、費用がかかるため、地域組織等と連携した環境整備の仕組みを検討する必要がある。

・推進協議会を設立し、着地型観光ルートとしてトレイルの商品化を検討する。

・子ども向けトレイルは、楽しませる仕掛けの工夫や小中学校への情報発信、授業でのアウトリーチを検討する。

8　実施状況

<table>
<tr><td> </td><td> </td></tr>
<tr><td>モニターツアー
（備中松山城と臥牛山コース）</td><td>モニターツアー
（吹屋往来＆とと道コース）</td></tr>
<tr><td> </td><td> </td></tr>
<tr><td>モニターツアー（倉敷川とともに
歴史文化を辿るコース）</td><td>シンポジウム
（10月29日、吉備国際大学）</td></tr>
<tr><td> </td><td>
</td></tr>
<tr><td>推進協議会設立準備会
（7月3日、成羽文化センター）</td><td>プロモーション資材の制作
（リーフレット、バンダナ、缶バッチ）</td></tr>
</table>

©岡山県「ももっち・うらっち」

平成２８年度協働事業提案募集採択事業の概要　No. ５

１　**事業名**　　：「龍の仕事展」を大学生の人材育成として活用したインターンシッププログラムの開発

２　**実施団体名**：龍の仕事展実行委員会

３　**協働担当課**：地域政策部地域づくり推進課振興班

４　**事業概要**

高梁川に育まれた「ものづくり企業」、自社の企業文化の紹介や個性的な商品の販売を行う「龍の仕事展」を活用し、大学生が自己啓発力・自己教育力等を身につけることのできる人材育成プログラムを産－官－学の連携で開発する。

５　**事業の流れ等**

（１）参加学生

ア　参加学生の所属大学（６大学）

岡山県立大、倉敷芸術科学大、吉備国際大、くらしき作陽大、川崎医療福祉大、作陽音楽短期大

イ　実行委員会へ新たに参加した大学（１大学）

岡山商科大学　→　実行委員会１２大学

（２）事前研修（会場：備中県民局　6/26・倉敷天文館彰邦館　7/3）

今年度は、学生の早期募集により、事前研修を昨年度４回から２回に省力化した。

龍の仕事展・Ｄ－ＩＮＴＥＲＮＳＨＩＰの目的やルールの共有、ケーススタディ等を行った。研修は補講含め計２回実施し、３６名が受講した。

（３）企業交流会（会場：倉敷商工会議所３階　第５会議室　7/13）

企業と学生が出展目的等について共有を図るため、交流会を開催し、企業は８社１２名、学生は１１名参加した。それに先立ち、学生がエントリーシートに記入した希望企業と事前研修の評価により担当する企業のマッチングを実施した。

（４）企業研修

７月１３日～９月１０日の間に計３４名の学生が会社訪問や工場見学等を行い、企業が考える龍の仕事展での目的・目標・課題を踏まえて、学生が展示方法等について提案を行った。

（５）直前研修（会場：備中県民局　8/28･倉敷天文台彰邦館　9/4）

企業研修で行ったことの発表や龍の仕事展までの行動計画の策定などを行った。直前研修では、補講を含め３４名参加した。

（６）「龍の仕事展２０１６」会場での接客･販売等の研修を受講

（会場：倉敷アイビースクエア内アイビー学館　9/17～9/25）

龍の仕事展中、朝･夕のミーティングを開き、朝、皆の前でその日の課題と目標を発表し、夕方、それに対し取り組んだ成果報告を毎日行い、反省と課題解決の方法を皆で考えるＰＤＣＡサイクルを回すプログラムを実施した。

（７）成果発表会（会場:備中県民局　10/2・倉敷天文台彰邦館　10/16）

事前研修から龍の仕事展までの一連の活動を振り返り、これからの大学での学業や自分の人生にどのように生かすかについて発表する事後研修を実施した。

成果発表会では補講を含め、計３３名が受講した。

（８）最終成果発表（会場：備中県民局　12/4）

学生代表８名がD－INTERNSHIPから得た自身の変化や学びを振り返り、これからの学業や人生にどのように生かすかを考え、一般の方へ発表する最終成果発表を行った。それに伴い、プレゼンテーション等で伝わる伝え方のスキルアップを行う事後研修を１１月７日～１２月１日までに計４回行なった。

６　成果・効果

学生アンケートについて、本プログラムが自分のキャリア設計に「とても役立つ」（他の選択肢として、「やや役立つ」「あまり役立たない」「全く役立たない」）と答えた学生が過半数を超えており、人材育成プログラムとして大きな成果を残したと言える。

なお、龍の仕事展について、今年は天候に恵まれず来訪者数は過去２番目の１２，８０４名（前年度比８７．７％）、会場売り上げも過去２番目の２，９９３，７５５円（前年度比８１．４％）となった。

7　今後の課題等

①募集の段階

(ア)会場運営スタッフの設置

会場全体での設営、美化、集客、連携などの弱さを補うために専属の学生スタッフを設ける。企業担当から独立した、全体の運営に携わるスタッフを新たに募集する。

（イ）龍の仕事展前日と翌日への参加

「龍の仕事展」前日の搬入の学生参加を必須とし、「龍の仕事展」終了翌日の片付けにも参加を求める。

②事前研修の充実

本来の企業展の趣旨がぼやけている様子を鑑み、事前研修の中に「龍の仕事展の意義」や「企業文化」、「地方ブランド戦略」について学ぶ時間をとる。

③中間研修の実施

企業へのアプローチが遅れ、企業研修が円滑に行えていない学生が目立ったため、中間研修を設け、企業研修の進捗状況を早めにチェックし、フォローする体制を確立する。

④大学との連携

持続可能な事業への取り組みを目指して、当該事業が大学での授業になるよう大学との連携を図っていく。

８　実施状況

事前研修	企業研修
企業研修	直前研修
龍の仕事展：ミーティング	最終成果発表

平成２８年度協働事業提案募集採択事業の概要　No. ６

１　**事業名**　　：将来の土木技術者を育成するための「橋守」活動サポート事業

２　**実施団体名**：特定非営利活動法人　TEC.ECO 再生機構

３　**協働担当課**：建設部建設企画課

４　**事業概要**

建設産業は人々の生活や経済活動の基盤である道路・河川などの社会資本の整備を担う重要な産業であるが､若手入職者の減少や就労者の高齢化が進んでいる。「橋守」活動を通じて、身近な社会インフラの一つである橋梁の補修に対する関心を高め、将来の土木技術者の育成につなげるものである。

５　**事業の流れ等**

（１）「橋守」補修現場見学会の開催

開催日時：平成２９年１月１２日（木）
講習会場：備中県民局第二庁舎会議室
講習内容：岡山県の土木行政の概要
　　岡山県の土木職員の魅力等
見学場所：川辺橋歩道橋（橋梁補修工事施工中の現場）
参 加 者：笠岡工業高校環境土木課１年生（４０名）

（２）【若手技術者のための簡易橋梁点検マニュアル 入門編】の作成

岡山大学環境理工学部　西山哲教授指導によるマニュアルの作成

（３）橋守等の活動を発信するブログの整備

http://tececo.hateblo.jp/

６　**成果・効果**

本事業で、将来の建設産業を担う笠岡工業高校環境土木科の生徒に、橋梁補修工事の現場を間近に見てもらうことで、県の土木行政の役割を周知し、社会インフラ整備に関心を抱いてもらうとともに建設産業のイメージアップができた。

また、橋守のマニュアルを作成し配布することで、橋守活動について知ってもらい、土木の仕事を身近に感じてもらうきっかけづくりとなった。

さらに、将来の進路選択時に、行政もあることを意識付けることができた。

7　今後の課題等

今回製作した簡易橋梁点検マニュアル入門編を、笠岡工業高校だけでなく、他の工業系高校へもあらゆる機会を捉え配布するとともに、地域を支える重要な役割を担う将来の土木技術者を育成するために現場見学会の受入を継続的に実施すべきである。

8　実施状況

現場見学会（講習）	現場見学会（講習）
現場見学会（川辺橋歩道橋）	床版打音確認体験
橋守等の活動を発信するブログ整備	簡易橋梁点検マニュアル　入門編

平成２８年度協働事業提案募集採択事業の概要　No. 7

１　**事業名**　　：大学留学生との交流をとおしての地域の活性化事業

２　**実施団体名**：輝け！江良元気会

３　**協働担当課**：地域政策部地域づくり推進課振興班

４　**事業概要**

本事業は、大学留学生との交流をとおし、「地域のひと・もの・こと」を活用し地区住民の総意と工夫で地域の活性化事業を行う。

５　**事業の流れ等**

６月２５日	田植え（参加留学生６名）
７月１０日	中川小学校との交流（参加留学生７名）
８月１３日	イングリッシュ・デイキャンプ（外国人講師１名）
１０月９日	神輿担ぎ（参加留学生１５名）
１１月１２～１３日	ホームステイ（参加留学生７名）
１１月２０日	ウェルカムパーティ（参加留学生４５名）
１月７～８日	ホームステイ（参加留学生９名）
２月１２日	反省会

６　**成果・効果**

（１）地域の成果

・交流準備や事業をとおして、地域の老若男女が互いに話しやすくなり、住民の絆が一層深まった。

・外国語の話せない子供や高齢者でも留学生に気楽に話しかけられるようになっている。

・地域外の人から、交流について褒められたり、羨ましがられたりして、自分の地域を誇れるようになっている。

（２）子供たちに与えた成果

・仲良くなった留学生の国のことを調べたり、帰国した留学生へ電話したり、将来自分も留学したいなど、外国に興味を持つ子供たちが増えている。

・留学生歓迎の式では、小学生自身が英語で歓迎の挨拶を考えて、披露するなど、地区住民を驚かせている。

（３）町や周辺地域に与えた成果

・行事に地区外の方が徐々に多く参加するようになった。また、ホームステイ引き受け家庭の申し込みが地区外の方も増えつつある。

・矢掛町と岡山大学との交流が盛んになり、町の観光誘致に寄与している。

７　今後の課題等

・より多くの人が交流に参加するための方策の検討。

・参加した地域住民全員が、留学生と交流できる仕組みの構築。

・各イベントのスムーズな進行方法の構築。

・大学と留学生双方の意見を取り入れた参加型イベントの検討。

８　実施状況

田植え 留学生と子供たちが一緒に行う	田植え 留学生に話しかける子供たち
イングリッシュ・デイキャンプ 外国人講師が子供に話しかける	神輿担ぎ 留学生と地域住民で神輿を担ぐ
神輿担ぎ 留学生と地域住民の交流	昨年度から設置されている看板

平成２８年度協働事業提案募集採択事業の概要　No. 8

１　**事業名**　　：備中地域づくり実践講座の開催

２　**実施団体名**：備中田舎カレッジ連絡会議

３　**協働担当課**：地域政策部地域づくり推進課振興班

４　**事業概要**

高梁・新見の両市で、地域づくりの担い手を増やし、裾野を広げるための「地域づくり実践講座」を開催する。

５　**事業の流れ等**

７月１５日　プレセミナー開催（新見市）
　　参加者：１０名
８月２６日　第１回講座開催（場所：高梁市成羽町吹屋）
　　参加者：１０名（うち塾生２名）
９月２３日　第２回講座開催（場所：新見市哲多町花木）
　　参加者：１３名（うち塾生３名）
１０月２８日　第３回講座開催（場所：高梁市松原町春木）
　　参加者：６名（うち塾生１名）
１１月２５日　第４回講座開催（場所：新見市大佐田治部）
　　参加者：７名（うち塾生１名）
１２月１６日　第５回講座開催（場所：井原市芳井町下鴫）
　　参加者：３名（うち塾生１名）
１月２０日　最終プレゼン（場所：岡山市中区西川原）
　　参加者：塾生１名
３月　１日　最終相談会（場所：高梁市内山下）
　　参加者：８名（うち塾生２名）

６　**成果・効果**

・少人数であったため、塾生の多様な要求に柔軟に対応できた。
・昨年度の卒塾生が、運営に主体的に参画し、カレッジの手法を習得できた。
・塾生や関係者の間で一体感が高まり、さらに人間関係が広まった。

7　今後の課題等

・卒塾生のつながりを継続させ、それぞれの活動が全体として地域を活性化するよう支援する必要がある。

・開催に当たって、安定した塾生数を確保することが必要である。

8　実施状況

新見市　プレセミナー	新見市　第２回講座
高梁市　第３回講座	新見市　第４回講座
最終プレゼン	最終相談会

平成２８年度協働事業提案募集採択事業の概要　No. ９

１　事　業　名：新見哲西産シシ肉の６次産業化ネットワークによる普及事業

２　実施団体名：一般社団法人水辺のユニオン

３　協働担当課：農林水産事業部農畜産物生産課農産班

４　事業概要

野生鳥獣による農林水産被害金額は、平成２７年では県内３億円３千万円（管内１億１千万円）にのぼり、特に備中県民局管内ではイノシシによる被害が最も多い。

このような状況の中、一般社団法人水辺のユニオン（事業主体）が、ジビエ料理コンテストやハンターガールによるセミナー等を開催し、管内で捕獲したイノシシの食品（ジビエ）としての利用推進を図った。

５　事業の流れ等

（１）シシ肉のジビエ料理コンテストの開催

・１０月１日～３０日の１ヶ月間、高梁川流域等の飲食店（11 店舗）で新見市哲西産シシ肉を使用したジビエ料理を提供するジビエ料理コンテストを実施した。

・料理コンテスト開催に合わせて、ＰＲチラシやポスターを作成するとともに、専用ＨＰやyoutube、facebook などソーシャルメディアを用いた情報発信も行った。

（２）シシ肉を使用した商品開発とその試作品によるマーケティング調査

・７月２０日に実施されたトマトアグリフェアにシシ肉の加工品（コン猪）を出品し、バイヤーや専門家の方々など約１００名の方に試食いただき、マーケティング調査を実施した。

（３）ジビエ料理研究家兼猟師（ハンターガール）井口和泉氏によるセミナー開催

・１０月１日（土）１７時から倉敷市酒津の旧原田邸において、ジビエ料理研究家兼猟師（ハンターガール）である井口和泉氏を招き、狩猟・ジビエ料理についての講演会「ジビエの魅力を伝える」及び新見市の猟師の長尾一三氏とのトークセミナーを実施した。

６　成果・効果

・ジビエ料理コンテストのジビエ料理を食べた方からは「シシ肉のイメージが変

わった」「シシ肉は匂いがあると思っていたが（臭み等）全然無く、おいしかった」等の意見が寄せられ、このコンテストを通じて「シシ肉ジビエ」の魅力を地域に対して大きく発信することができた。

・マーケティング調査の結果、シシ肉の加工品（コン猪）の評価は概ね高く、当日開催された商品コンテストでは３位にエントリーされ、シシ肉のイメージを一新できる商品である感触を得た。一方、パッケージについては、「女性向きでない」との評価もあったため、検討を要することとした。さらに、シシ肉のキーマカレーやシシ肉の丼についても試作を行った。

・ハンターガール井口和泉氏によるセミナーの参加者からは、猟師の長尾氏の解体技術やハンターガール井口氏の料理を高く評価する発言が多くあった。また、この模様は、倉敷ＣＡＴＶが撮影し、後日繰り返し放送することで、広く地域にシシ肉ジビエの魅力を発信することができた。

７　今後の課題等

安全、安心面には、最大限注意を払いながら、捕獲されたイノシシ等については、地域資源として有効活用し、ジビエの普及等を通じて、鳥獣被害対策の推進や地域の活性化を図る。

８　実施状況

井口和泉氏によるセミナー	ジビエ料理コンテスト実施店舗